

南甲弁理士クラブ



幹事長 真田 有

南甲弁理士クラブについて

南甲弁理士クラブは、昭和3年(1928年)6月に、中央大学出身者を中心として発足されたクラブで、中央大学が「南甲賀町」(現在の神田警察署付近)にあったことから、その地名に由来して「南甲弁理士クラブ」と命名されたそうです。しかし、現在は出身大学にとらわれず、広く門戸を開放しておりますので、会員の出身校も様々となっております。会員の多くは東京近郊を本拠としていますが、東海地区を始めとして東京近郊以外の地域にも多くの会員を擁しています。

南甲弁理士クラブは、日本弁理士クラブを構成する会派として、これまでも多くの弁理士会会長、弁理士会役員を日本弁理士会に送り出してきましたが、いずれの役員も日本弁理士会にあって重要な役回りを担ってこられました。その根底にあるのは、南甲の組織的な人材育成方法にあるものと思われます。歴代幹事長は、いずれも資金部長、選対委員長として2年間幹事長を補佐し、その後、幹事長に就任するというプロセスの中で、組織運営や政策を学ぶ機会を得てきました。今でこそ、幹事の負担軽減の面から幹事長に至る3年体制を2年体制に減らし、副幹事長の数も増やしましたが、筆頭副幹事長が資金部長としての役割を果たし、選対に関しても深く関わる点は変わりありません。

南甲の特色を一言で言えば、「良く遊び、良く学び」であると思います。先輩の後輩に対する面倒見が大変良く、会合の後などに盃をかたむけることもしばしばです。盃を重ねれば、先輩後輩を問わず、自由闊達な論議に花が咲き、そのような議論の中に学ぶ機会が多いのも事実です。先人には、「遊び心」を持った人が多く、この点で象徴的なものとして、南甲弁

理士クラブに脈々と続いているものが2つあります。一つは「南甲新聞」であり、もう一つは「南甲特大どら焼き」です。「南甲新聞」は、昭和52年5月に第1号が創刊され、今年で26年になりますが、南甲新聞では、南甲のイベントをおもしろおかしく記事にしており、登場人物は実在でも、実名で登場することは殆どありません。「南甲特大どら焼き」は、南甲のシンボルマーク入りの直径20cmはあるどら焼きで、始めて見る人の度肝を抜かずにおかないものです。毎年、合格者祝賀会と忘年会で配り、好評を博しております。このように、南甲弁理士クラブは、「遊び心」溢れる会員に支えられ、「良く遊び、良く学び」をモットーとして活動しております。

また、最近では、女性会員や新入会員のクラブ活動への参加も積極的にすすめております。

南甲弁理士クラブの組織

南甲弁理士クラブは、総会を最高の意思決定機関とし、会務の運営にあたる幹事会、意見聴取機関としての顧問会、会務の会計監査を行なう会計監査委員会を擁しています。本年度の幹事会は、幹事長、筆頭副幹事長以下、6名の副幹事長と10名の幹事の計18名の幹事で構成されています。幹事会には、親睦、研修、普及活動、情報、広報、政策、人事、協議、会員、東海の計10部会があり、各部会長を幹事が担当しています。幹事会では、各種行事の企画、運営、総会、例会の開催、各種人事についての決定等を行ないますが、人事については、客観性・公平性を担保するため、顧問会での意見聴取と人事部会への諮問を行なうようにしています。

本年度の活動

本年度の活動方針は、親睦行事、研修、趣味のクラブ活動を通じてクラブのより一層の活性化を図る、当クラブから輩出の日本弁理士会の役員と会員との間の情報交換を活発にしてクラブの意見を会務に反映させる、クラブの魅力を外部に積極的にアピールして会員数の増大を図る、という点に力点をおいて活動しています。人事の問題については、当クラブが日本弁理士会に対していかに貢献できるかという観点から、顧問会の意見等も参考にして、慎重且つ粛々と進めています。新弁理士法のもとでの役員選挙については、これまでよりも一層組織全体としての支援体制が重要であるとの認識のもと、協議委員会を中心として体制作りを進めています。また、今年新設の情報部会により、南甲内外への情報発信、情報交換のシステム作りを進めていきます。

また、女性会員や新入会員のクラブ活動への参加をいっそう進めていきます。

親睦行事

「遊びの南甲」と呼ばれるだけあって親睦行事は盛んです。特に旅行会は、南甲の親睦行事の最大のイベントであり、毎年多くの会員が参加し、決して普段見せない姿で「南甲新聞」の一面を賑わします。今年も、選挙日程との関係で、例年、秋に行なっていた旅行会を6月に繰り上げ、浜名湖にある館山寺温泉で行ないました。今年は浜名湖だけあって、うなぎ三昧の旅行会でした。家族参加で楽しめる納涼会は、本年度は東京ディズニーシーのメインホテル「ホテルミラコスタ」でミッキー、ミニーのショー付きのパーティーを行ない、多数の参加がありました。ディズニー・リゾートでの宿泊オプションもあり、2日間たっぷり、ディズニーランド、ディズニーシーを家族で楽しんだ会員もおられました。このほか、忘年会、新年会等が予定されています。



研 修

南甲弁理士クラブは、「遊び」だけでなく、「学ぶ」という点、即ち研修にも力を入れています。例年、6、7回の研修会に加え、海外研修旅行を開催しております。通常の研修会は、南甲の会員だけでなく他会派の会員にも門戸を広く開放しております。今後も、日弁各派との連携等も図りながら、活発な研修を行なっていきます。また、本年度はソフトウェア関連発明実務に精通しておられる牛久健司先生（春秋会）をお願いして、ソフトウェア関連発明の中間実務について研修を行ない、大変な盛況ぶりでした。

また、日本弁理士クラブ主催の特定侵害訴訟代理業務試験直前研修についても当クラブの幹事が研修担当として活躍しました。

さらに、商標に関する研修や米国特許弁理士を講師として招いて米国特許実務に関する研修も予定しております。

普及活動

普及活動として、ここ何年かは、論文試験合格者に対する口述模試、赤坂プリンスホテルでの合格者祝賀会等を開催しておりますが、本年度は、合格者に対する就職相談会等の企画に加え、趣向を凝らした祝賀会を予定しております。合格者の大幅増に対して今後どのように対応していくべきかは現在検討中ですが、今回の祝賀会は一つの試行であると思っております。

広報活動

広報活動として、広報部会では、例年、年2回「南甲新聞」を発行します。このほか、選挙に関する号外版を出すこともあります。南甲の活動をまとめた「南甲」誌の発行も行ないます。また、情報部会では、南甲ホームページを通じた広報活動を行なっています。

レクリエーション部の活動

レクリエーション部として、ゴルフ部、野球部、釣り部、テニス部、マージャン部、囲碁部、スキー部があり、一部休部中の部もありますが、大方は活発に活動しております。特にゴルフ部は、他クラブにも門戸を開き毎年4～5回のコンペを開催しています。釣り部も年3回程の例会を開催しています。また、スキー部では、毎年、家族同伴でスキーと温泉を楽しんでいます。



おわりに

現在、我々を取り巻く環境が目まぐるしく変化しているため、時代の流れに戸惑いを感じておられる会員の方も多いと思われます。そのような変化の時代だからこそ、方向性を見誤ることが無いように、

日本弁理士クラブを構成する他会派と共に、南甲弁理士クラブも、当クラブの特色を生かしながら、日本弁理士会の正副会長会を政策面などで強力に支えていく組織として、更なる発展を目指して行きたいと思っています。



平成15年6月28日 南甲弁理士クラブ 於 鎗山寺温泉 ホテル九重